

《口腔科学教育部博士前期課程 口腔保健学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な専門知識】	【2. 高度な専門技術】	【3. 強い責任感と指導力】	【4. 国際性と問題解決能力】	科目の教育目標	
			社会から求められる口腔保健学を理解し、これを実践するための高度な知識を有する。	教育・研究者として問題解決型授業を主体的に行う能力や、口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また、入院患者へ行う専門的口腔ケアや、保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能を有する。	学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し、科学の進歩に関心をもち、継続的な生涯学習を実践できる。また、強い責任感と指導力を有し、チーム医療や医療連携を重視しながら、口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。	学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち、常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と学習に心がけ、科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し、課題を解決する能力を有する。		
基礎科目	共通カリキュラム科目	生命倫理概論	◎		○		生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。	
		臨床心理学	◎				臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。	
		社会医学・疫学・医学統計概論	◎				社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標とする。	
		英語論文作成法	◎			○	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。	
		生命科学の研究手法	◎	○			医科学、生命科学に必須の初歩的技術が理解できる	
		医療系分野における知的財産学概論	◎			○	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	
		宇宙と栄養・医学概論	◎	○			宇宙栄養学・医学の分野において、宇宙実験の申請に必要な知識や問題点が理解できる。	
専門科目	口腔保健学基盤科目	口腔保健増進学概論	◎	○	○	○	1. 口腔保健増進に関与する自然・社会・環境因子を概説できる。 2. 保健医療・福祉全般にわたる地域の現状について概説できる。 3. 口腔保健領域で用いられる疫学研究手法について説明できる。 4. 高齢者に対する口腔保健活動について説明できる。 5. 高齢者・障害者に認められる摂食・嚥下障害に係わる要因を説明する。 6. 摂食嚥下機能の評価法、指導訓練法について説明できる。 7. 英語により口腔保健を概説することができる。 8. 看護の役割として口腔保健について概説できる。 9. チーム医療における口腔ケアについて説明できる。 10. 高齢者施設等での口腔機能向上につながる具体的な支援方法について説明できる。	
		口腔保健学特論	◎	○	○	◎	1. 科学的根拠に基づいた地域に適合した口腔疾患の予防法を概説できる。 2. 口腔保健の現状と問題点について概説できる。 3. 国際口腔保健について概説できる。 4. 口腔保健学教育について概説できる。 5. 高齢者福祉について概説できる。 6. 口腔保健と福祉との連携の実践について説明できる。 7. 急性期医療が必要な患者への口腔保健の立場からの援助について説明できる。 8. 口腔機能を最大限に賦活するために有効な口腔機能療法について説明できる。	
		国際口腔保健学		◎			◎	各国の歯科医療と口腔保健事情あるいは福祉全般にわたる現状と問題点について最新の情報を踏まえて講義する。特に本科目は英語による討議と発表を義務づける。
		医療福祉学	◎	◎				地域と連携した保健・医療・福祉を実践するために必要な基礎知識及び実践例などを示して教授する。
		長寿口腔保健学	◎	◎				高齢者や要介護高齢者に対する口腔管理についての知識と技術を獲得する。また、その有効性について科学的根拠を示すことができる。
	口腔保健学課題専攻科目	臨床系	医療倫理と研究倫理	◎		○		現代の医学および医療レベルのめざましい進歩の中で、必要とされる医の倫理や研究倫理、生命の尊厳について理解を深め、医療人および研究者として対処すべき倫理に関する基礎知識と行動規範を学ぶ。
			口腔機能賦活学		◎	◎		口腔機能を最大限に賦活するために必要な基礎的知識や技術、実践の場での確かな口腔機能評価および口腔機能療法を行うための専門的な手法について修得することを目的とする。
			口腔機能賦活学演習		◎	◎		急性期病院における入院患者を対象とした臨床の現場において、多様性のあるここの症例に倒して的確に口腔機能評価を行い、専門的口腔ケアを含めた口腔機能回復を行うため、その技術を習得するとともに、s-に最新の学術論文内容について理解を深める。
			高齢者・障害者口腔機能管理学		◎	◎		要介護高齢者や障害者の口腔機能管理にあたって必要となる身体的、精神的特性や基本的援助技術の他、口腔保健・福祉に関連する社会調査手法について理解することを目的とする。【テーマ】高齢者・障害者に対する医学的評価に基づいた口腔機能管理
			高齢者・障害者口腔機能管理学演習		◎	◎		高齢者・障害者口腔機能管理学で学んだ知識をもとに、口腔・摂食・嚥下機能の保持増進を図る観点からの具体的な医療福祉に関する支援の方法について実践できるように理解することを目的とする。【テーマ】高齢者・障害者に対する口腔機能管理の実践
口腔保健学臨床系課題実習		◎	◎			急性期病院や高齢者福祉施設または地域保健（行政機関等）において口腔保健関連業務を指導的・中核的に担うための技術を修得することを目的とする。【テーマ】実践的プログラムによる高度専門職業人としての基盤形成		
口腔保健学課題専攻科目	臨床系	口腔保健教育学		◎	◎		将来の口腔保健学教育を担う教育者として不可欠な教育に関する基礎的な知識、教育の原理・カリキュラムの立案や評価法、PBL・チュートリアル授業等について理解を深めるとともに、近年の高等教育現場で義務化されたFDの意義とその実践例を学ぶ。	
		口腔保健教育学演習		◎	◎		口腔保健教育学で学んだ知識をもとに、歯科医学教育、社会福祉教育に関するテーマで（カリキュラムプランニングなど）についてワークショップ形式の演習を行うとともに、PBL・チュートリアル授業におけるチューターなど、将来の口腔保健学教育を担う教員として必要な知識と手法を身につけることを目的とする。	
		口腔予防科学		◎	◎		EBMに基づく予防手段・手法について理解する。 歯・口腔疾患に関わる環境要因を理解する。歯・口腔疾患の成因を全身疾患との関わりから理解する。 歯・口腔疾患の成因や病態を分子生物学的な視点から理解する。	

科目名		ディプロマ・ポリシー		【1. 高度な知識】	【2. 高度な専門技術】	【3. 強い責任感と指導力】	【4. 国際性と問題解決能力】	科目の教育目標
				社会から求められる口腔保健学を理解し、これを実践するための高度な知識を有する。	教育・研究者として問題解決型探求を主体的に行う能力や、口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また、入院患者へ行う専門的口腔ケアや、保健福祉活動の場で求められる高度な専門技術を有する。	学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し、科学的進歩に関心を持って継続的な生涯学習を実践できる。また、強い責任感と指導力を有し、チーム医療や医療連携を重視しながら、口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。	学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち、常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と学習に心がけ、科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し、課題を解決する能力を有する。	
	教育・研究系	口腔予防科学演習			◎	◎		研究課題テーマに関連する学術論文を選択する。 学術論文の作業仮説や実証方法および計画立案方法を理解する。 口腔疾患予防に関する最新の知見を学ぶ。 口腔保健分野の研究に必要な実験方法を習得する。 分子生物学分野の研究に必要な実験方法を習得する。
		口腔保健学教育・研究系課題実習			◎	◎		(教育系) 次世代の歯科衛生士教育の担い手となることができるよう、教育系の課題を選択した学生へは学内で実施されている種々の教育プログラムやFD・SDワークショップに立案の段階から参加し、実際の目標設定・方略の選択・評価・運用のすべてを経験し、その内容を理解する。 (研究系) 口腔保健学の学問体系を確立する研究者としての基盤形成を培うことができるよう、研究系の課題を選択した学生へは口腔保健分野の研究を進行するための課題を学生から提示させ、適切な実験方法や基本的な実験主義を示すプロトコルに従った実習を行い、実験成果を導く手技・手法を習得する。
	口腔保健学課題研究演習		○	○	○	◎	口腔保健および社会福祉に関する課題研究テーマを選択し、自ら計画・立案する。 得られた結果を分析・考察する。 課題研究成果を発表する。 課題研究に関する修士論文を作成する。	